

和文表題 フォント: ゴシック体, サイズ: 12 ポイント

(和文副題 12 ポイント, 両端を括弧で囲む)

English Main Title Font: Times (New) Roman, Size 10pt
 (English Sub-Title Font: Times (New) Roman, Size: 10pt)

(申込時の表題から変更しないで下さい)

和文氏名 (所属) フォント: 明朝体, サイズ: 10 pt 例: 混相 一郎 (〇〇大院)
 英文氏名 Font: Times (New) Roman, Size: 9 pt, Example: KONSOU Ichiro

Abstract It must be written with 10 pt Times (New) Roman Font. The line spacing is 10.5 pt. The number of words is limited within 200.

Keywords: Font: Times (New) Roman, Size: 10 pt, About 5 words

1. 各章のタイトルはフォントサイズ 9 pt のゴシック体
 本資料は、オフセット原稿を作成する方法を、視覚的にわかりやすく示したものです。

2. 本文執筆の要点

2.1 用紙サイズ, 余白, 段組み
 原稿用紙にはA4版用紙を用い, 余白は次のようにする。
 上余白: 17 mm, 下余白: 20 mm
 左余白: 18 mm, 右余白: 18 mm

本文の段組は, 次のような2段組とする。

段間隔: 8 mm, 段幅: 83 mm

2.2 フォントと改行幅

標準フォントは, 9 pt の,
 和文: 明朝体
 英文: Times (New) Roman, Times, Symbol
 を用い, 太文字には 9 pt の,
 和文: ゴシック体
 英文: Arial, Helvetica

を使用する。上記のフォントがない場合には, これに準ずるフォントを用いる。

改行幅は 12.25 pt とする。この設定により, 1 段あたりの文字数は, 26 文字×60 行=1560 文字となる。

2.3 式と記号

式と記号の標準文字は 9 pt の斜体 (イタリック体) とする。ベクトルの場合は太字の斜体 (イタリック体) あるいは一をつけた斜体 (イタリック体) とする。添字の上付き文字と下付き文字は 6 pt 程度のフォントサイズとする。以下に例を示す。

$$J_G \quad V_L \quad P_{ijk}^n$$

式の上下には空白行を設け, 式の右端に式番号を記入する。例えば,

$$F_D = C_D \frac{1}{2} \rho |V| V S \quad (1)$$

のように記述する。式を文章中で参照するときは, 式(5), 式(7)-(10)のように式番号の前に“式”をつける。

2.4 図, 表, 写真とその説明

図, 表, 写真は 1 段落, あるいは 2 段幅に収まるように作成し, 文章の適当な位置に配置する。図中のフォントサイズは十分認識できる 9 pt 程度とする。6 pt 未満の文字は使用しない。

図, 表, 写真の前後に 1 行の空白行を設ける。

図, 表, 写真の説明は, 太字の図, 表, 写真の番号の後に, 標準文字 (9 pt) の英語で説明を記述する。以下にその例を示す。

Fig. 2 Schematic of experimental apparatus.

Table 3 Properties of test fluids.

Photo 4 Flow pattern around sphere.

文章中で図, 表などを参照するときは, 太字で Fig. 2, Table 3, Photo 4 等と記述する。

原稿は PDF ファイルとして配布するため, カラーの図表も受け付ける (次頁の「講演論文集について」参照)。

2.5 記号の説明

記号を多数用いる場合には, 緒言 (結論) および謝辞等の後に, Nomenclature (本文中で使用した主な記号の説明) を英語で記述する。フォントサイズは 9 pt 程度とする。記入方法については本資料の Nomenclature の例を参照する。

2.6 参考文献

参考文献もフォントサイズ 9 pt で記入する。記入方法については本資料の文献記入例 ([1], [2]は単行本, [3], [4]は雑誌論文, [5], [6]は講演論文, [7]はウェブサイトの例) に従う。本文中で文献を引用する時には, [2], [2]-[4]等, 標準サイズの文字で参照する。

Nomenclature

C_D	: drag coefficient	[-]
dP/dz	: pressure gradient	[Pa/m]
Re	: Reynolds number	[-]
V_T	: terminal velocity	[m/s]

Greek letters

μ	: viscosity	[Pa·s]
ρ	: density	[kg/m ³]

Subscripts

G : gas phase
 L : liquid phase

参考文献

- [1] Wallis, G. B., One Dimensional Two-Phase Flow, McGraw Hill, New York (1969).
- [2] 日本機械学会編, 気液二相流技術ハンドブック, コロナ社 (1989).
- [3] Zuber, N. and Findlay, J. A., J. Heat Transfer, Vol. 87, 453–468 (1965).
- [4] 高木周, 松本洋一郎, 混相流, Vol. 10, 264–273 (1996).
- [5] Ohira, H. et al., Proc. 6th Int. Conf. Multiphase Flow (ICMF2007), CD-ROM, Paper No. S1_Mon_C_8 (2007).
- [6] 田中博人ほか, 日本混相流学会年会講演会 2003 講演論文集, pp. 219–220 (2003).
- [7] <http://wwwr.hamamatsu-it.ac.jp/jsmf2010/> (ただし website は永年のでないため引用は勧められない)

原稿の長さ :

2 枚とします。超過は認めませんのでご了承ください。ページ番号は付けないでください。原稿の様式が本フォーマットと著しく異なる場合は、修正を依頼します。なおオーガナイズドセッション講演者はアブストラクトのみの講演論文も可とします。

提出物と提出先 (重要) :

原稿の PDF 電子ファイル (4Mbyte 未満) を混相流シンポジウム 2022 のホームページからお送り下さい。

混相流シンポジウム 2022 論文精選集への投稿 :

特集号の出版を予定しています。この混相流シンポジウム 2022 で一般講演発表を審査し、優れた講演を特集号の候補論文として推薦いたします。推薦論文の審査に当たっては、著者の掲載希望 (講演申し込み時に「一般講演の論文特集への掲載審査」で「希望する」を選択) を勘案いたします。なお、論文の査読過程は通常の混相流学会誌論文と同一です。

講演論文集について :

講演論文集は、印刷体としてではなくダウンロード形式での配布となっております。これに伴い、カラーの図表も問題なくお使いいただけるようになりました。

講演原稿提出期限 :

2022 年 6 月 20 日 (月) 厳守

その他のお問い合わせ :

実行委員会事務局 :

委員長 波津久達也 (東京海洋大学)
幹事 井原智則 (東京海洋大学)

E-mail: [mfsymp2022\[at\]jsmf.gr.jp](mailto:mfsymp2022[at]jsmf.gr.jp)

までお問い合わせ下さい。